

早香(はやか)

登録番号：第2526号

登録年月日：平成2年12月5日

登録者：農林水産省果樹試験場

(茨城県つくば市藤本2-1)

育成者：奥代直己 石内伝治 生山 巖

高原利雄 松本亮司 村田広野

浅田謙介 山本雅史

来歴：「今村温州」と「中野3号」ポンカンの交雑実生

特性

■栽培特性

樹勢はやや強で、樹の開張性は中程度である。枝梢は密生する。枝に短いげを生じることがあるが、樹齢を経るにしたがって無くなる。葉の形は披針形、大きさはポンカンよりやや大きい、「今村温州」より小さい。結果始めおよび結果性は中程度である。

12月に収穫できる早生種であり、また、ポンカンに発生の多い収穫前のす上がり現象も見られず、糖度も高く、適応地域の範囲は広いと考えられる。樹勢が強く、結果性、耐寒性も中程度で、栽培上特に問題は認められない。

■果実特性

花は単生でポンカンよりやや大きく、「今村温州」より小さい。色は白色、花弁数は4枚、花粉を形成し、果実には5～十数個の種子を有することが多い。胚は淡緑色で多胚。

果実の大きさは150g前後で、果形指数136～141程度で扁円形である。果皮の色は橙色で、「今村温州」よりやや薄く、ポンカンと同程度であるが、着色が遅れ全体に緑色が残り、完全着色となるのは12月中～下旬である。果皮はポンカンと同様に油胞が突出して粗く、大きい。果皮は両親より薄く、剥皮は容易であるが、浮皮の発生が多い。果肉の色は橙色ないし濃橙色で、肉質は柔軟で多汁、ポンカンに似た香りがあり、糖度は13～14度と高く、食味は優れている。じょうのうはやや厚い。クエン酸の減少は早く、12月上旬には1%以下になることが多い。熟期は12月上～中旬頃である。果実の外観はポンカンに似ているが、ポンカンより糖度が高く、1か月ほど早熟であり、「青島温州」よりもやや早熟である。しかし、果肉先熟タイプで、果皮の緑色が抜け難いので、早期出荷には着色予措が必要と思われる。クエン酸が12月上旬には1%以下に減少するが、以降も糖度が上昇し食味が向上するので、できるだけ12月中旬以降の完全着色期まで樹上に置いて出荷する。貯蔵力は弱いようである。

■病虫害抵抗性

病害については、そうか病にはやや強いが、かいはよう病抵抗性は中程度である。トリステザウイルス（ステムピッチング）の発生も中程度である。口之津支場の観察では、栽培管理上問題になるほどのものは認められていない。

■地域適応性

ポンカンの本来の熟期は1月中～下旬であるが、冬季の気象条件が厳しいわが国では、年内に収穫される。早期に採収されるためポンカン本来の風味、食味を発揮できていない。そこで開発された本品種は12月上～中旬に収穫できるポンカンに似た良い香りを有し、しかもポンカン、ウンシュウミカンより糖度の高いポンカンタイプのみかんの品種である。価格の低迷するウンシュウミカンの一部が本品種に替ると考えられる。現在、本品種は広島県を中心として瀬戸内地方の増植が認められる。

(松本亮司)